

第45回 基研運営委員会議事録

S. 43. 6. 29

於 基研コロキウム室

- 議長 湯川 秀 樹
- 出席者 田中 一, 中嶋 貞雄, 坂田 昌一, 小林 稔,
松原 武生, 井上 健, 高木 修二, 碓井 恒丸,
牧 二郎, 松田 博嗣, 玉垣 良三
- 欠席者 小川 修三, 久保 亮五, 中村 誠太郎 (外国出張中)
小谷 正雄 (外国出張中)
- 議題 1. 研究部員会議の報告と承認
2. アトム型研究員選考
3. 15周年シンポジウム委員会報告
4. その他

1. 研究部員会議の報告と承認

報告が行われつつ、以下のような追加意見が出されて承認された。

○ 研究計画 (モレキュール 4 の提案について)

計算費のみ) の研究提案についての議論
1つの研究室員のみ

玉垣 ・ Project がしっかりしていれば良いのでは、
・ 研究室が計算費を支出できる財政状態かどうか。

田中 一つの大学で campus が違う人) が共同で研究
近くの大学の人
するのはあまり違わないのではないか。

高木 それはだい分違う。研究会でなく、Project という category を
設けてはどうか。

湯川 共同利用を優先した上で、そういうものを考慮できたらよい。

高木 奨励金的なものがあるといい。

第45回

- 田中 研究室の経済的な援助は好ましくない。しかし一つの研究室の規模をこえた Project を encourage するというのもあってよい。
- 中嶋 今回については、内容が前に基研でやられた研究会に相当関係している。
- 牧 或る形式を作って優先するものを決めておいた方がある。例えば全国的な規模のものを優先するとかしたらよい。
- 湯川 今回についてはモレキュールのカテゴリーとしては疑問があるが、Projectとして内容が適当であるので、これを認めたという諒解でよいと思う。
- 碓井 前の基研主催の研究会に関連が深い、という注釈をつけた方がよい。
- 田中 来年からは、大型センターが動き出すので、当面の問題としては、commercial base のものをどの程度認めるか、ということの方が問題。
- 坂田 公募のとき、研究計画の定義をはっきりさせた方がよい。
- 松田 基研になじみのない人によくわかるような配慮が必要。
- 湯川 あと基研にまかせてもらい、次の募集からはっきりさせるようにしたい。

○基研の将来計画

- 田中 夏の学校を基研の“横の大学院”として考えて見てはどうか。
- 小林 夏の学校について：湯川記念館の時代に刊行会の援助で第1回をここでやった。次回以降は他所でやったが、基研としてしばらくの間援助していた。財政的補助をやめたことには
- ・基研は教育機関でない
 - ・若手は甘えすぎる
- という意見が反映している。
- 田中 去年、原子核では国際会議にそなえて、DC学生とそれより少し年長の人々で夏の学校を開いた。国際会議委員と若手の夏の学校委員とで計画をたてて開いたが、成功したと思う。
- 湯川 それはよい。大学院生とそれより少し上で分かれるのはよくない。
- 田中 そのGapは数年おきの間隔で見られるようである。若いうちに作ら

れて、それが続いていくということであろう。

松田 物性にはあまりない。

田中 基研としてやるなら広い意味での若手を対象として考えた方がよい。

湯川 現在大学院が身分的に閉鎖的にしようとしている。それを Open にするための Summer School には意味があるだろう。

○巨大科学について

牧 「巨大科学」という概念はきわめてあいまいであるが、安易に使われて日常語化されつつあるのは好ましくないと思う。

高木 全体として巨大科学になっている。そういうもとで基研で何をするか、

湯川 巨大科学という言葉のとらえ方をはっきりさせる必要がある。関連した問題として Computer がある。Computer 自身は大きいものだが、基研にもそれを使う人がある。しかし、その学問自体は巨大科学ではない。また、加速器は大きい但那れを使う学問は巨大科学ではない。

高木 Control がきかないから「巨大」という意味もあるが、現在はやや事情が変わってきた面もある。

坂田 若手を甘やかすと墮落するという意味もあるが現在はやや事情が変わってきた面もある。

小林 教育と研究の比重をどう考えるか。

湯川 教育も成人教育は考えてきたし、これからも考えていく必要がある。

○科研費について

中嶋 今年度審査委員となった人は物研連の決議があるというので、やましいとは思っていない。物研連の結論を修正すべきではないか。小谷文書は物研連の正式決定ではない。

議事録 ②の「個人的配分委引きうけは了解」というのは目をつぶるということであれば、議事録にわざわざ書くことがおかしい。

牧 これと関連して物研連委員の選び方にも大いに問題があると思う。

高木 物研連の 4.22 の議事録は確認されていないのではないか。

坂田 議事録は出た時期からみても確認されていないはずであるのに引用されるのはおかしい。

湯川 J S C 総会で科研費の件はとおっていないのに物研連で議論するの

第45回

はおかしい。

碓井 物研連議事録には、④という項目がある。

(②の項目についてはJ S Cで他の方向を出した場合には改め
て当研連で審議するという内容)

坂田 これが出たときはまだJ S Cの態度が決っていなかった。

④によってこの議事録を再検討することが必要になるだろう。

碓井 物理で独自の対策をたてるべきではないか。

湯川 問題は簡単になってきた。J S Cに諮問しない、学会学協会は協力しないということで、全く個人的に依頼を出す段階に来ていたのだ。

湯川 J S Cと学審の関係は本来対立すべきものではない。学審は行政レベルまで考え、J S Cはそこまでやらない。

田中(一) 学審ができるとき基本的施策が出され、それにJ S Cから申入れをしたとき、「学審の役割は行政 base で考えるときのみ」という解答を得ている。それが拡大解釈されるとよくない。学審は検討能力の基礎を持っていない。

松田 物性グループ事務局報2号に小谷先生の意見が出ている。J S Cと学審は complementary と考えていられるようだ。

高木 学審は執行機関になり得ないのだから、そうはいえない。

湯川 実行するのは文部省である。「J S Cから文部省に提案すると、学審においてJ S Cの方針を無視した案を作る」という困った事態が起る。前身の学術奨励審議会の時にはこういうことはむしろ少なかった。

高木 文部省は何かやりたいから、これを学審に格上げしたのだと思う。

田中(一) J S Cに注文をつけるのならJ S Cの「物の見方」が甘いということを指摘したい。

湯川 科研費の問題はさしあたり今年度のことが問題にされているが、実は去年からの問題であった。審査の仕方だけの問題ではなく、科研費について学審がそれにある種の性格づけをしたという点が重要。我々はそれに賛成していない。

坂田 J S Cと学審が Complementary という考えは誤っている。本来矛

盾していると思う。学審は文部省の一種の「かくれみの」

湯川 学審はむしろ無い方がよい。

坂田 文部省が作ったのだからそのままでよいが、「かくれみの」ということを認識すべきだ。

高木 それは政府が任命しているからというわけか。

小林、坂田 政府が任命し、その意見を学者の意見と思わせるということが問題。

坂田 もし学審に入って良いことをしようとしても無視されるだけである。

湯川 J S Cと違う意見を学審が「大所高所から」出してきた、J S Cのものが入れられないのは困る。

田中(一) 他の審議会には知らないが、学審は単に「かくれみの」という以上のものがあるように思われる。うらに何か主役があるように見える。

坂田 文部省が主役

湯川 back ground まで考えると非常に大きな問題になる。それが科研費にもあらわれてくる。

高木 J S Cは総会主義をとっており、具体的にも執行機関になれないのではないか。もっとも核特委は随分動いているが、全分野からみると例外的である。

牧 S T A Cがつぶれた理由は？

坂田 科学技術会議が作られたことと関係がある。

湯川 基研は本来の共同利用研の理想にあうように勤めてきたが、大学のあり方からは、はみだしている。J S Cの Support があつたから共同利用研ができたがJ S Cは Moral support 以上のことはできないようである。

坂田 学術会議でたてた将来計画の中には、共同利用研の改善も含まれている。

湯川 最近の15年をふりかえると、だんだん行政面はよくない方向に動いている。

坂田 それは日本の科学行政全体の傾向

松田 J S Cの予算がふえない事がどの程度J S Cの活動にひびいているか。

第45回

坂田 J S C 総会も年2回しか開けない。J S C の概算要求も初期には総会で承認していたが、今はやっていない。J S C がどうやったら強くなるか考えて欲しい。その無力さの現れは学審のできたことである。J S C を強力にする母体は科学者全体である。

牧 科学技術会議と学審とは似ていると思うが。

高木 科学技術会議は行政にうつすには必ず通さねばならないが、学審は諮問のみ。

坂田 両者は同質的なものだが、科学技術会議には連絡部会があることが異なる。そこにはJ S C から人も出ており、それがS T A C の後身の如きものである。

牧 学審に入りこんでこれを利用すべきだという意見を言われる人もあるが、実際にはそうしたJ S C 会員が逆に利用されているだけである。

中嶋 科研費について、物性と素粒子ではとらえ方がかなり違うように思われる。

松原 この問題は皆さんの意見が非常に違うので、私は自分の意見はできるだけふせてきた。物性は統計力学関係と固体電子論関係にわけProjectとして申請している。(総合班A)

配分辞退について、もしアンケートをとったら反対する人が多いだろうと思われる。

碓井 Projectにするか、今までの物性基礎論を単に2つにするかははっきり決っていなかったのではないか。

松原 決っていなかったので、アンケートをとり、班は完全に再編成した。

中嶋 低温班でも再編成したが、かなりProject的であり、伏見Principleに沿った結果になった。

小林(稔) 他にもアンケートをとって半数以上賛成なら辞退するという所があるようだ。

玉垣 今年どこも返上しなかったら、来年になげかける効果は大きいと思われる。

湯川 抗議をしても何か具体的に現れる事柄がないと、次から今年度のよ

うなことを、そのままやるための非常に強い back になるおそれがある。宇宙線関係はどう考えているのか。

高木 原理的には強いことをいうが、返上論にはまともらない。

小林(稔) 米の配給制度が悪いからといって配給をうけないことはしないという論者もいる。

牧 早大のように強硬論もあるが ……。

高木 返上で一時的運動に終わったら困る。

湯川 今年度のやり方は伏見氏などの昨年のやり方と実質的には同じだが、ただ形式的には違う。

坂田 「伏見原則」は科研費のあり方から考えても疑義があるので、昨年その点を J S C の立場ではっきりさせておくべきだった。

2. アトム型研究員選考

選考の結果、次のように決定した。

金子孝夫	(名城大, 理工, 講師)	1ヶ月
山本浩史	(福井大, 工, 助教授)	2ヶ月
品田正樹	(電通大, 助教授)	2ヶ月
西田修二	(阪大, 基礎工, D 2)	1ヶ月
斎藤基彦	(東大, 理, D 3)	1ヶ月
福山秀敏	(〃 〃 D 2)	1ヶ月

3. 15周年シンポジウム委員会報告

玉垣氏より研究部員会議、シンポジウム委員会(2・8日夜)の報告があった。Reporter や、式典・祝賀会について、現在、次のように予定されている。

第45回

	10:00	12:00	13:00	13:30	15:00	15:30	17:30
10月 28日	式典 来賓祝辞		基礎物理学とは 〔湯川〕	昼食会	素粒子論 〔坂田〕〔片山〕		I, II, 宮沢(小川)〕
29日	核力 〔(武谷)〕〔 , 〕				核構造論 〔高木〕〔丸森, 森田〕		超高エネルギー 〔藤本〕〔 , 〕
30日	天体・宇宙 〔早川〕〔 , 〕				物性理論と統計力学 〔松原〕〔 , 〕		〔(久保)〕
31日	生物物理 〔(小谷)〕〔 , 〕				基研の役割, 今後のあり方についての討論 座長 議長団 問題提起(15分/人): 湯川, 碓井, , 位田, 若手2		*

- 注 〔 〕 : main talk の Speaker
 () : 本人の承諾がまだ得られていないなど, 多少不確定さがある場合。
 [] : Subtalk の Speaker

*) 若手2人は素・研, 及び物性の若手より1人ずつ, 夏の学校に問題をもちかける。

式典: 10月28日 10:00 ~ 12:00 (司会井上先生)

式辞 (小林先生)

祝辞 京大総長, JSC会長, 文部大臣, 共同利用研代表(核研)

休憩

“基礎物理学とは”の湯川先生の talk よりシンポジウムの内容に入る。

昼食会: 第1日 12:00 ~ 13:00

約270名(研究者210名, 事務関係54名)

祝賀会: 3日目終了後, 会費制

討 論

- 坂田 15周年に向けて「風雲の書」のようなものを考えたかどうか。
- 湯川 要覧を準備している。
- 坂田 要覧としてまとめてしまうのではなく、これまでの風雲を盛り込んだものがあってもよいのでは。
- 玉垣 各地での討論がおこるような準備をシンポジウム委員会と所員ですることになっている。
- 坂田 そこで風雲の書的なことも考えてほしい。
- 田中 最後の Session にまで、湯川先生に心配していただくのは申し分けないのではないか。
- 湯川 議長団が心配している。若手の話などに意見が集中してはよくないから、学問的話をした方がよいというので引きうけたが、考えてみると討論の方向を決めてしまうのもよくないようだが ……。
- 中嶋 先生のお話を伺っていると、かえってどうしてよいかわからず、議論がかえって議論が活発になると思う。
- 坂田 混沌の中に返していただくのはいい ……。
- 湯川 そういってもらいと気が楽だ。

以 上

(文責 片岡 韶子)